

OHK 点字名刺導入から10年で15,000枚製作 ワークランド虹より感謝状贈呈

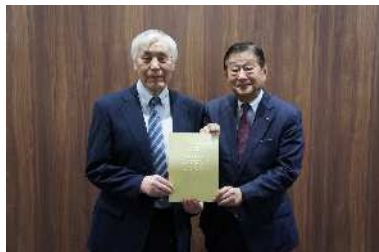
報道関係各位

岡山放送株式会社（本社：岡山市北区下石井二丁目10-12、以下OHK）は、2013年12月より点字名刺を導入し、これまで15,000枚を製作したとして、就労継続支援B型事業所のワークランド虹（運営：社会福祉法人岡山ライトハウス、岡山市北区今1丁目7-25）より感謝状をいただきました。

点字名刺とは、印刷された名刺に点字が刻印されたもので、名刺に点字を入れることにより、視覚に障がいのある方へのバリアフリー名刺となるだけでなく、その取り組み自体が企業イメージ向上につながる付加価値の高い名刺です。さらに点字加工は主に視覚障がい者が担当し、雇用支援にもつながる取り組みとして関心が寄せられています。



情報アクセシビリティ活動を推進するOHKは、2013年12月から点字名刺を導入しました。希望する社員や役員の印刷された名刺を地元岡山のワークランド虹に持ち込み、一枚一枚手作業で点字を刻印いただいています。これまでの製作枚数が15,000枚を突破したことを記念して6月20日、ワークランド虹 竹内昌彦理事長よりOHK中静敬一郎社長に感謝状が贈られました。



贈呈式の様子（左：竹内理事長、右：中静社長）



点字の感謝状(右)



点字名刺製作の様子（一枚ずつ名刺を原盤に挟み印刷機に通して刻印）



贈呈式で竹内理事長は「取材や放送だけでなく、点字名刺を通じた作業所への支援などのOHKの取組みはとて心強く感謝している。1枚の名刺から障がい者への理解の輪が広がれば嬉しい」と話しました。OHK中静社長は「私自身、点字名刺を使っているが、毎回受け取られた方が笑顔になる。情報のバリアを取り除くだけでなく、相手との心のバリアを取り払うきっかけにもなっている」と話しました。

OHKは今後も共生社会の実現へ貢献していくとともに、地域社会における情報弱者の課題に向き合い、“情報から誰一人取り残されない社会”の実現を目指し、より一層情報アクセシビリティ活動を推進してまいります。